

令和元年度 栃木市教育研究所研究員研修会 研究記録カード

1 部会名	学びに向かう学級づくり		部 会
2 研究員 所員 ◆：代表者	◆山田 卓志 ・椿 拓也 ・仲井 紗耶華	・木村 拓弥 ・穴澤 華子	所員 ・藤間 亮子 ・高岩 香純



3 研究テーマ

子どもの多様性を活かし、安心して学びに向かう学級づくりを目指した実践研究

4 研究の取組

(1) 研究内容

- 良好な人間関係を構築するための実践
- 児童・生徒同士が安心して意見が言え、認め合える話し合い活動の実践

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月13日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	2月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会の実践を持ち寄り成果を発表する。</li> <li>・来年度に向けた学級開きの計画例を考える。</li> </ul>
6月25日	研究テーマ・内容の協議、計画作成		
10月17日	子ども同士をつなげるエンカウターの 実践を持ち寄り成果を発表する。		
12月初旬	授業参観（学級会：於 大宮北小）		
12月10日	授業参観（学級会）の検討会	2月21日	1年次経過報告提出

5 研究の成果と課題

各学校で実践したエンカウターを持ち寄り共有したことで、「話す」と「スキンシップ（触れ合う）」という共通点が見えた。小さいうちはスキンシップにも抵抗はないが、小学校高学年ぐらいになってくると照れが出てくるため、やはり、友達とつながる手段は「言葉」であり、「話す」ことを通して、つながりを作っていくのだと改めて感じることができた。

学級会の実践、授業参観では、昨年度までの研究で作成した「話し合いのルール」「学級会の進め方マニュアル」が有効活用され、子どもたちで主体的に話し合いを進めることができていた。その中で、「折り合いをつけること（合意形成）」の難しさが課題として出てきた。「合意形成」について、中3国語の教材を使って実際に体験してみると、話し合いの目的を明確にし、目的に沿った話し合いの制約を設けることで、それが折り合いをつけるものさしとなり、合意形成に向かいやすいのではないかと考察することができた。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- 児童・生徒同士が安心して意見が言え、認め合える話し合い活動の実践
- 学級で「話し合いのルール」「学級会の進め方マニュアル」を踏襲した上で、「折り合い」をつけるために、話し合いの「目的」を大切にしたい、話し合いの「設定条件」の工夫。